

委員会宣言 ~~(案)~~

JR東日本輸送サービス労働組合は、本日、赤羽会館において、第3回定期中央委員会を開催した。「人として当たり前」に声を上げ、それを実現する2023年を、全ての仲間と共に職場のコミュニティを充実させ、輸送サービス労組の強化と拡大を実現させることを確認した。

2023年の賃金引上げは「物価高に負けないベースアップの実現」と会社が提案した「初任給特別措置の実施」と2021年度の定期昇給カットによって、世代間の公平性を欠き、不平等感を助長する「歪んだ賃金カーブの是正、経験労働で成り立つ鉄道における「年功型賃金制度の堅持、のために『定期昇給(昇給係数「4」)の完全実施』と『全社員一律3,000円+基本給に対し全社員定率4%(定期昇給を含まない)』を要求に掲げ「当たり前」の生活を送るため全職場から要求実現に向けた運動をつくり出すことを確認した。

昨年来、未曾有の物価高が襲い掛かり、私たちの生活は危機に直面し困窮を極めている。そして、労働力だけが安く買い叩かれ、一向に賃金が追いつかず、実質賃金の低下に拍車が掛かっている。2月8日、中央本部は未曾有の物価上昇に対し組合員の「生活の豊かさ」を保障するため、2021年4月の定昇カット分も上積みされた「特別手当の支給」を求める申21号と「特別昇給(昇給係数「2」)の実施」を求める申22号の団体交渉を行った。しかし会社は、組合員の労苦を慮ることもせず「支給・実施する考えにない」と回答した。「もう、これ以上の我慢はできない」「会社は、社員を、人を、大切にしなさい過ぎる」これらは全ての職場から聞こえる悲鳴と憤りの声だ。コロナ以前から正当な評価と真つ当な還元をしてこなかった会社への想いは、今や最高潮の怒りとなり爆発寸前だ。仲間と家族の「生活の豊かさ」を実現していくために、この怒りを組織の力へと高め『定期昇給(昇給係数「4」)の完全実施』と『全社員一律3,000円+基本給に対し全社員定率4%(定期昇給を含まない)』『エルダー基本賃金一律15,000円のベースアップ』の要求満額の実現を目指し、JR東日本グループに働く全ての仲間と共に、物価高に負けないベースアップを実現するためにたたかい抜こう。

JR東日本は、憲法で保障されている正当な労働組合活動に支配・介入している。2月2日『脱退パワハラ訴訟』は、証人尋問(第1回)が行われた。原告側の証人として証言台に立った仲間は、多くの仲間が命懸けで集めた数々の証拠の意味と本質を正しく伝えるため、JR東日本が経営トップを筆頭に行った「人権侵害の歴史的な企業犯罪」の事実を法廷の場で堂々と証言した。一方、被告側(JR東日本)の証人は、経営トップの発言は労組対策のために必要だったとの主張に終始した。3月2日の証人尋問(第2回)では、原告である4名の仲間が証言台に立つ。「あったことをなかったことにはできない!」全ての仲間と共に、勝利判決を手にしよう。

昨年11月14日『JR東日本八王子駅パンフ配布処分事件』が結審した。そして今も止むことのない不法行為・パワハラに対し、東京地本と八王子地本は、東京都労働委員会へ『不当労働行為救済申立て』を行った。私たちは人を大切にする健全なJR東日本・グループ会社を取り戻すために、全ての仲間の力で勝利を積み重ねよう。

鉄道開業150年。「36路線72区間」「4,000人削減」が公表され、鉄道の未来が揺らいでいる。政治主導で議論が進められる中、持続可能な地域交通のあり方を地域の皆さんと検討していくことが重要だ。そのために、日本輸送サービス労働組合連合会と共に『調査行動』を取り組み、地域に愛される鉄道と2度と雇用不安のない安心して働ける環境をつくり出していこう。

いま「新しい戦前」に突入しようとしている。敵基地攻撃能力の保有を明記した「安保関連3文書の改定」や、増税してまで「防衛力増強」が行われようとしている。まさに「生きる権利」が脅かされている。私たちは「戦争のない平和な生活」と「誰もが公平に生きられる社会」を実現しなければならない。

職場からの粘り強い実践によって、新たに多くの仲間が輸送サービス労組へ結集している。私たちは人を大切にし、仲間寄り、職場のコミュニティの輪をさらに広め、『統一地方選挙』でJTSU議員懇談会の会員議員の必勝を実現させよう。そして、「安全と安心な鉄道」、「人を大切にする企業風土」、「労働条件向上」、「地域との連帯」、そして「仲間との共創」をつくり出し、一人ひとりの仲間が主役の『輸送サービス労組未来ビジョン』を実現させるため「当たり前」の声を力に全ての仲間と共に行動し続けよう。

以上、宣言する。

2023年 2月10日
JR東日本輸送サービス労働組合
第3回定期中央委員会